

066 江戸時代 幕府の宗教統制

幕府の最大の関心事…天下泰平の実現。
各宗教が互いに宗教戦争、信仰強制をさせない社会(宗教の平和共存社会)を目指した。

1612年 禁教令 幕府直轄領

将軍・徳川秀忠 大御所・徳川家康
キリシタン、宣教師を牢屋へ。処刑せず。
わりと信仰も黙認、取締りは穏やか。

1614年 禁教令 全国に拡大

あ もと大名の 高山右近 をルソソに追放。

い 天草・島原のキリシタン農民も 棄教。
キリシタン大名有馬晴信、小西行長の知行地だった。

1622年 牢屋の宣教師を脱獄させようと
非イエズス会の宣教師が画策、発覚逃亡。

幕府に対する反抗なので秀忠激怒、
→ 元和の大殉教 牢屋の55名処刑。

あ 島原城主・松倉氏 } 過酷な年貢を課す
天草領主・寺沢氏 }

い 1614年からキリシタン弾圧を開始。
う 天草・島原を三年連続の大飢饉が襲う。
→あ、い、うに苦しむ農民の発想は、

自分たちが棄教した天罰だ
→松倉・寺沢氏ではなく自分たちを責める。

え 農民、立ち帰りキリシタン となる。

お 一揆軍を結成し、島原半島の仏教徒農民に 改宗を迫る。→従わないと襲撃。

か 最後の審判 が1640年という終末観
広がる。→その救世主が 天草四郎。

き 一揆軍、島原城は落とせず。
→ 原城跡 に逃げ込み籠城。

く 幕府、九州諸大名に12万の軍役を課す。

け 幕府に(オランダ船)の援軍、原城砲撃。
四郎「日本人同士の内戦に外国の力を借りるとは日本の恥ではないか」と矢文。
幕府「お前こそ外国の風俗を真似ているではないか」

こ 1638年2月27日の最後の総攻撃で乱終結。

これが1637年に始まった 島原の乱

老中・松平信綱「総攻撃の日の、童・少女らまで、斬られる時の歡喜の表情が忘れられぬ。…私の目には…何かにとりつかれている…!としか思えなかった…」



宗門改め (宗教調査)強化
→寺院に檀家が自分の寺の檀家であることを証明させた(寺請制度)

発行文書が 寺請証文
これが江戸時代の身分証として機能

誰もが必ずどこかの寺の檀家になることを強制した(寺壇制度)

宗派ごとに 寺院諸法度 で統制
1601年 高野山法度 1612年 曹洞宗法度
1615年 五山十刹法度 などの法度群。
(内容)本山の地位を保障(本末制度)
(内容)勝手に紫衣を天皇から受けるな。

1665年 諸宗寺院法度 (全宗派共通)
(内容)新規の宗派を作ることを禁止等。
(例外) 黄檗宗 創設が唯一の例外

明の亡命僧 隠元隆琦 が開祖
本山は京都の 万福寺
黄色いインゲン豆を食べてまんぶくだ!と覚える

神社・神道に対しては 諸社禰宜神主法度
(内容) 吉田神道 (唯一神道)
を正当な神道と定めた。

(内容) 吉田家に統制権を与えた。
(内容) 京都の吉田神社が伊勢神宮の上。
京大正門前

天照大神もシャカも孔子も道教もキリスト教も大いなる何かの現れとする神道。根本は同じ唯一の「大いなる何か」シャカは神の現れなので 反本地垂道説 である。